

# 「主体的・対話的で深い学び」を目指した校内研修がもたらす教師の意識変化 ～生活科・総合学習を中核とした校内研修における振り返りの分析から～

水谷 徹平（新潟県長岡市立脇野町小学校/上越教育大学大学院）・小川 亮（富山大学）

概要：公立小学校の校内研修における教師の振り返りの分析から、教師の意識変容について報告する。研修の意見交換に用いた校務 IT 化支援システムの掲示板機能の記述をデータとしてテキスト・マイニングし、分析・考察をおこなった。分析対象は 2015 年 4 月～2016 年 3 月の、公立小学校教諭 17 名の研修にかかわる記述である。分析の結果、子どもが主体的に行っている活動について、教師側からどう働きかけるのかが問題となっていた。また、ベテラン教員は子どもの思いを活動につなげようとするのに対し、若手教員は子どもの考えを学習活動につなげようとする記述が少ないことが示された。

キーワード：教師教育，校内研修，テキスト・マイニング

## 1 はじめに

平成 28 年 8 月、中央教育審議会初等中等教育分科会教育課程部会から示された次期学習指導要領等に向けたこれまでの審議のまとめでは、情報化やグローバル化といった社会的変化についてふれ、「社会の変化は加速度を増し、複雑で予測困難となってきており、しかもそうした変化が、どのような職業や人生を選択するかにかかわらず、全ての子供たちの生き方に影響するものとなっている。社会の変化にいかに対処していくかという受け身の観点に立つのであれば、難しい時代になると考えられるかもしれない」と示されている。このような現状を受け、中央教育審議会教員養成部会では、これからの学校教育を担う教員の資質能力の向上についての中間まとめの中で「教員の学習観を転換させ、各教科等の指導に関する専門知識を備えた、いわば教えの専門家にとどまらず、アクティブ・ラーニング等の実践力や、学習の成果を適切に評価する力、カリキュラム・マネジメントなどの力を備えた、いわば学びの専門家へと転換することが必要であり、子供たちに教育を行う教員の資質能力の向上を含めた教員政策の改革が不可欠であることから、教育課程の改善に向けた議論と歩調を合わせながら進めていく必要があ

る」とパラダイムシフトの重要性を挙げる。

また、「『教員は学校で育つ』ものであり、教員の資質能力を向上させるためには、経験年数や職能、専門教科ごとに行われる校外研修の体系的な実施とともに、学校内において同僚の教員とともに OJT を通じて日常的に学び合う校内研修の充実や、個々の教員が自ら課題を持って自律的、主体的に行う研修に対する支援のための方策を講じる必要がある」としている。

本研究においては、生活科・総合学習を中核とした校内研修における振り返りの分析から、「主体的・対話的で深い学び」を目指す校内研修における教師の意識がどのようなものであるのか、また、経験年数でどのような差異があるのかを分析・考察する。

## 2 研究の方法

### (1) 調査対象および調査時期

対象期間：2015 年 4 月～2016 年 3 月

観察対象：N 県公立小学校教諭 17 名

学校規模：通常級 9 学級，特別支援級 2 学級

調査方法：校務 IT 化支援システムの掲示板機能による教師の研修意識のテキストマイニングによる分析・考察





表1 若手・ベテラン・担当外の特徴語リスト

ベテラン		若手		担当外	
子ども	.486	感じる	.174	遅い	.119
活動	.439	授業	.173	驚く	.112
自分	.272	自分	.163	授業	.088
見る	.236	子	.137	楽しむ	.082
思い	.188	姿	.129	聞く	.073
教師	.187	勉強	.097	見る	.069
総合	.158	聞く	.092	持つ	.069
大切	.154	真剣	.074	難しい	.068
たくさん	.132	楽しむ	.071	書く	.066
公開	.127	様子	.071	考え	.064

若手・ベテラン・担当外でクロス集計をかけたものが表2である。生活・総合を担当しているベテランと若手は、担当外と比較して児童の行為・思考に関する記述は、ベテラン・若手、担当外で1要因参加者間での分散分析を行ったところ、ベテランは担当外に比べて有意に多かった。また、教師の行為・思考に関する記述は、ベテランと担当外は、若手と比較して有意に多かった。このコーディングリストでは、主語が省略されている文はカウントされず、1文の中で子どもと教師が同時に使用されているものの重複カウントはあるが、傾向としてベテランは子どもの姿や行為、思考についてみようとしているのに対し、直接活動を進める立場ではない担当外の教師は、子どもの姿や行為、思考についてみようと意識が少ないと考えられる。また、教師の行為や思考について、ベテランは若手や担当外に比べて記述が多い。教師の行為・思考について、ベテランと担当外はどのように声掛けや足場作りをしようとしているかを試行しているのに対し、若手は子どもの姿を見るのに精いっぱい教師の出場や支援の仕方について思考が追い付いていないと考えられる。

以上のことから、若手がより子どもの姿を見ようという意識をもち、教師として子どもの活動にどうつなげるかを思考し、教育観や活動観、

表2 子ども・教師についての記述数の差

	1要因分散分析結果						F値	多重比較
	ベテラン (n=8)		若手 (n=5)		担当外 (n=5)			
	平均	SD	平均	SD	平均	SD		
*児童の行為・思考に関する記述	100.13	57.082	43.8	12.106	11.2	11.016	7.14 **	ベテラン > 担当外
*教師の行為・思考に関する記述	61.375	28.718	17.6	5.7827	8.4	8.7772	11.13 **	ベテラン > 若手 ベテラン > 担当外

\*p<.05 \*\*p<.01

子ども観を更新していくか、また、ベテランとの相互作用の中でどのように観が生成されていくのかが明らかになることが、研修成果を上げる視点として考えられる。また、担当外の教師をさらにチーム学校として研修に参加し、意欲や思考が促されるような状況を構築することがこの形で行う校内研修としての課題である。

#### 4 結論と今後の課題

教師の教育観や子ども観が更新される様相が認められたと同時に、子どもが主体的に行っている活動について、教師側からどのように働きかけるのかが問題となっていた。ベテラン教員では子どもの思いを活動につなげようとするのに対し、若手教員では子どもの考えを学習活動につなげようとするのが少ないことが示された。今後、経験年数の差異は、一般性があるのか、どのように量的・質的に変化していくのかを詳細に分析し、どのような教員研修を行うことで教師としての資質・能力が育まれて行くのかについて考察していく必要がある。また、教師の見方・考え方の見取りや評価のために、実際の授業場面の分析を行い、記述から見られた意識の変容が実際にどのような行動の変容とかわかるかを明らかにする必要がある。

#### 参考文献

- ・文部科学省、『次期学習指導要領等に向けたこれまでの審議のまとめについて（報告）』,文部科学省,2016
- ・中央教育審議会初等中等教育分科会教員養成部会『これからの学校教育を担う教員の資質能力の向上についての（中間まとめ）』,文部科学省,2015
- ・中央教育審議会初等中等教育分科会教員養成部会『これからの学校教育を担う教員の在り方について（報告）』,文部科学省,2015
- ・樋口耕一、『社会調査のための計量テキスト分析- 内容分析の継承と発展を目指して』,ナカニシヤ出版, 2014